

海賊史観へのいざない 500年に渉る世界交易史を再検討する

近代世界は、いわゆる西欧世界による「大航海時代」とともに幕を開ける。だがその実態は、旧来のアジアの海上交易網への、スペイン・ポルトガル勢力の海賊行為による侵入に等しかった。今日のグローバリゼーションglobalizationと呼ばれる全球化も、その究極の姿として理解できる。本講演では、従来の世界史の通説を「海賊史観」から洗い直し、東アジア世界がそのなかでいかなる役割を果たしたのかを、具体例に即しつつ検証したい。

- 講座時間 -

2021年10月9日 星期六
19:00~21:00
(腾讯会议: 715 135 250)

稲賀繁美

京都精華大学教授

国際文化学部

国際日本文化研究センター・総合研究大学院大学

名誉教授

放送大学客員教授



- 研究分野: 比較文学、比較文化、文化交流史
- 主な著作: 『海賊史観からみた世界史の構築—交易と情報流通の現在を問い直す』(思文閣出版、2017) (編著)、『接触造形論—触れあう魂、紡がれる形』(名古屋大学出版会、2016)、『絵画の東方—オリエンタリズムからジャポニズムへ』(名古屋大学出版会、1999) など多数。